

社会政策〈G07A〉

配当年次	3・4年次
授業科目単位数	4
科目試験出題者	宮本 悟
文責(課題設題者)	宮本 悟
教科書	指定 石畑 良太郎・牧野 富夫『よくわかる社会政策 雇用と社会保障』 [第3版]以降(ミネルヴァ書房)

《授業の目的・到達目標》

現代の資本主義社会では、労働・生活に関わるさまざまな社会問題が生じています。この授業では、学問としての社会政策の基本的枠組みを把握した上で、種々の労働・生活問題対策の歴史・現状を理解することを目的とします。授業を通じて、労働・生活に関する今日的な政策領域について持論を展開できる能力の獲得を目標とします。

《授業の概要》

「社会政策とは何か」については、いまだに学会レベルでの統一見解が形成されていない状況であるものの、社会政策という概念によってカバーされる具体的な政策領域としては下記のような内容が含まれると考えられます。

- (1) 労働者保護の政策領域：賃金・労働時間などをめぐる国家政策であり、今日的な問題としては、最低賃金、同一労働同一賃金、ワーク＝ライフ・バランス、ブラック企業などが挙げられます。
- (2) 労使関係の政策領域：主に労働組合をめぐる国家政策が含まれます。例えば、組織率の低下、非正規労働者の組織化、公務員のスト権などの問題が挙げられます。
- (3) 雇用・失業の領域：失業対策・雇用安定立法などの国家政策であり、例えば、失業者の生活支援、雇用流動化、職業能力開発、障害者雇用などの問題が含まれます。
- (4) 社会保障・社会福祉の領域：生存権保障をめぐる国家政策であり、例えば、老齢年金、医療保障、介護保障、生活保護、障害者福祉、子育て支援などの問題が含まれます。

このように、社会政策が扱う社会問題は多岐にわたります。授業では今日とくに重要と思われる分野を中心に、その歴史的展開・現状・問題点などを検討していきます。

《学習指導》

資本制社会における労働・生活問題を扱う授業ですので、労働者の諸権利や生存権に関する知識を身につければ、社会政策の理解も深まるでしょう。そのため、憲法や労働法も併せて履修することをお勧めします。

また、社会政策は「批判の学問」とも言われますので、日頃から意識的に労働・生活問題の関連情報を入手し批判的に検討することは、授業の理解を深めるでしょう。

《成績評価》

試験(科目試験またはスクーリング試験)により最終評価します。

社会政策〈G07A〉

- ◎課題文の記入：必要（課題記入欄に課題文を書き写すこと）
- ◎字数制限：1 課題あたり 2,000 字程度（作成基準のとおり）

第1 課題

社会政策とは何か。その主体・目的・方法について説明しなさい。

第2 課題

労働組合の社会政策的意義と日本の労働組合の特質を論じなさい。

第3 課題

日本の公的年金制度の現状と問題点について述べなさい。

第4 課題

「同一労働同一賃金」原則の今日的発展形態について考察しなさい。

〈推薦図書〉

厚生労働省（編）	『厚生労働白書』（2020 年）	日経印刷
法政大学大原社会問題研究所	『日本労働年鑑 第90 集（2021 年度版）』（2020 年）	旬報社
伊藤 周平	『社会保障入門 シリーズ ケアを考える』（2018 年）	筑摩書房 （ちくま新書）
唐鎌 直義	『脱貧困の社会保障』（2012 年）	旬報社
川東 英子	『続 ジェンダー労働論』（2019 年）	ドメス出版

* 教科書を熟読するのは当然のこととして、推薦図書をはじめとする他の文献も活用してレポート作成に臨んで下さい。